

ともに今後そく進をはかる必要がある。

(4) 公園、緑地

広島城趾をふくむ中央公園外4カ所の大公園，84カ所の小公園，ならびに6カ所の山部緑地，および河岸緑地などを系統的に配置している。これら公園，緑地の計画面積は1人当たり約10m²で，都市公園法の理想とする6m²を上まわっているが，現在の開園面積は3.6m²となっている。

(5) 下水道，都市下水道

地勢的に市街地の約6割が満潮面より低位にあるので，本市の下水道の創設はわが国でも最も古いものの一つに数えられ，この整備は本市多年の重要施策となっている。そこで都市計画では市街地を対象とする排水区域1274haの下水道，周辺部を対象とする排水区域1156haの都市下水路の計画を樹立し，鋭意事業を実施中である。

(6) 官公庁団地

中央公園に隣接した面積26.64haの計画団地は，交通上，環境上，きわめて立地条件が良く，旧軍用地の関係上大半が国有地であり，すでに一般官庁合同庁舎，県庁舎，電々合同庁舎は建設され，法務合同庁舎も建設中である。完成の暁には住民の利便，公務の能率増進のみならず，旧庁舎敷地の転用等経済効果も大である。

そのほか本市都市計画の主要構想として，用途，防火地域の指定，墓園の建設などの完成促進が望まれている。

なお，本市都市計画に密接な関係を有する事業として太田川改修，広島港修築，新広島国道建設，臨海工業地帯造成，山地部住宅地造成などがあり，都市機能の整備増進に寄与している。

VII. 中国四国の観光地

まず中国路の観光は，三つに分けることができる。

それは，“山陽路の旅”は瀬戸内海につき，“山陰の旅”は神話と伝説，それに温泉である。そして中部の山脈地帯は溪谷美と温泉郷ということになる。

瀬戸内海は，山陽本線を走る列車の窓から併行してその美しい景観を見ることができる。

列車から降りて，観光地を訪れようとするならば，鷲羽山，鞆の浦，耕三寺，宮島と全国的に知られているものだけでも相当な数になる。

鷲羽山は，その名前のように，海上から見上げた山の姿が，いかにも鷲が羽をひろげているようだ。

山頂の鐘秀峰からの眺めは絶佳で，大小とりどりの島々が足下に，まるで箱庭のように見える。

遠くに四国の山波が見え，この夕照はまた格別である。

鞆の浦は仙酔島と鯛網で，よく知られているところ，今さら喋々する必要もあるまい。ただ，阿伏兎観音の奇勝は，見逃してはならない景勝である。

耕三寺は瀬戸内海の生口島にあり，“西の日光”といわれるほどの豪華なもので，ここには各時代の国宝級の建築を模造したものが，二十近く建てられている。これらはすべて，この島の金本耕三氏が個人で建てたもので，寺内には重要文化財の指定をうけている仏像や，古美術品が，数多く展示されている。ここに行くには，尾道と三原から船便がある。

宮島については，もう説明の要もないが，毎年旧暦の6月17日の夜に行なわれる管絃祭は，海上を渡る珍らしい行事で，この日はいつも数万の人出で賑う。また，この島の最高峰弥山の頂上へは，ロープウェイがあり，眺望がよい。

このほかに，呉市と倉橋島との間に架けられた音戸大橋があり，その下は音戸の瀬戸という70mの幅を持つ潮流の早い所で，今では1000トン級の船舶が行きかう要路となっているが，800年以前に平清盛が，沈んでゆく日輪を呼びもどして掘ったという伝説を持っている。昭和37年3月，日本道路公団の手で架けられた橋で，らせん状の部分が珍らしい。海上高くエンジ色のアーチを描いて，落成以来たちまち新観光地として華々しくデビューした。

山口県に入れば，岩国の錦帯橋がある。錦川に架けられた，その半円五連の木橋は，変わっている形から別名を「そろばん橋」ともいわれ，甲斐の猿橋とともに日本三奇橋の一つとされている。この橋を渡ると，吉香公園があり，その背景となっている城山には，新しく岩国城が再建され，38年春ロープウェイもつけられた。

本州の最西端下関は，遠洋漁業の基地であるが，今は観光方面にも力が注がれ，平家滅亡の地，壇の浦をはじめ，赤間宮，忍宮神社など平家の歴史を語る数々の遺跡，宮本武蔵と佐々木小次郎が対決したという巖流島，それに水族館，火の山公園という近代的設備のものを加えて，観光客を喜ばせている。

さて，ここで裏日本の山陰地方に目を転じることしよう。

はじめに，山陰は神話と伝説の地と書いた。それほど，この地方にはそうした話題が多いのである。

特に，島根地方には古代日本文化の発祥地として，古事記，日本書紀の大部分を飾り，その昔における神々についてのたくさんの神話，伝説をもち，その古蹟も各所に点在している。

素佐男命が八岐大蛇を退治した簸の川，“出雲風土記”の中で，国引の柱としたと伝えられる三瓶山にど，いずれもこの地方にある。

大国主命を祀る出雲大社、その付近の稲佐浜、日御崎神社など、みんなそれに関するものばかりである。

遠く日本海に浮ぶ隠岐島も、その例外ではない。

鳥取県にも、童話として有名な「因幡の白兎」の伝説をはじめ、湖山池(湖山駅下車)、多鯨ガ池(鳥取駅下車)など、いろいろ変わった神話や伝説が残されている所が多い。

温泉は、山陰地方の恵まれた観光資源とでもいうべきもので、山陰本線の沿線には、それがずらりと並んでいる。観光を兼ねた宿泊地としての温泉は、松崎駅近くの松崎、東郷の温泉と、その対岸にある浅津温泉をはじめ米子市の皆生温泉、松江と大社の観光基地といわれる玉造温泉、下関に近い川棚温泉がある。

いずれも近代的な設備をもち、それぞれ特長のある環境に恵まれている。

療養向きの温泉としては、東から岩井温泉(岩美駅)、吉岡温泉(鳥取駅)、浜村温泉(浜村駅)、温泉津温泉(温泉津駅)、有福温泉(都野津駅)、湯本温泉と俵山温泉(長門湯本駅)などがある。

また、山陰の観光地としては大山をはずすわけにはいかない。伯耆富士といわれる山容の美しさ、それに観楓の名所でもあり、キャンプ、スキー場としても知られている。中部の山岳地帯にもまた、有名な温泉が多い。

ラジュウム含有量世界第二位という三朝温泉をはじめ、関金温泉が鳥取県に、岡山県では美作三湯と呼ばれている湯の郷、奥津、湯原の三温泉がある。広島県では湯来温泉、山口県では秋芳洞、秋吉台への宿泊地として知られている湯田温泉がある。

この地帯特有の渓谷美は、広島県に帝釈峽と三段峽、山口県に長門峽がある。

以上中国地方における観光地としてのおもなるものを列挙したが、広島、松江、山口の都市の観光も捨てがたく岡山の後楽園、倉敷の大原美術館など個々のものについては到底限りある紙数では述べきれない。

さて、四国の観光地であるが、四国は中国路とともに瀬戸内海を控え、その観光のスケールも大きく、島内四県の広域にわたって観光資源も豊富である。

本土から四国への国鉄連絡船が着く所は高松である。

ここは四国の表玄関で、天下の名園といわれている栗林公園がある。また付近には内海随一の自然の展望台である源平の古戦場、屋島がある。

この香川県には「さぬきのこんぴらさん」で有名な金刀比羅宮がある。高松からは交通の便もよく、列車も電車もある。社殿は象頭山の中腹にあり、社頭からの眺望はよい。二十四の瞳で名高い、オリーブみのある小豆島も

高松からほど近い。

徳島県では、阿波踊りと人形浄瑠璃の徳島市であるが、駅の近くに徳島公園があり、また西南部にある眉山公園は、春には桜花の山と化す。ロープウェイもあり、展望台がよい。

この地を訪れる以上、鳴門の観潮は見逃してはならない。豪快な鳴門の「大うず」は瀬戸内海の潮の干満によって、内外の水位に落差が生じるために起こるもので、観潮するには大潮の時が一番壮観である。

愛媛県に入ると、石鎚国定公園がある。

標高 1981 m で四国の最高峰、西日本の名山といわれる石鎚山を主体とした景勝地で、もちろん渓谷美を誇る面河溪を包含している。

松山には、松山城とともに、夏目漱石の坊ちゃんで有名な道後温泉がある。

「土佐の高知のはりまや橋」といえば、いまではだれ知らぬ者もない高知の名所、いまは市の中心街となっている。

大太平洋の黒潮を目前に見る景勝地、桂浜や、室戸岬の観光には、ここからバスが出ている。足摺岬はやや遠くなる。

以上四国の観光地について述べたが、土讃線の大步危小歩危の奇勝、祖谷溪、土佐山田駅から入る竜河洞など、観光する所はいくつでもある。

また四国は、八十八カ所の霊場をもち、これを巡るお遍路さんの姿が印象的である。

VIII むすび

当地方における開発の展望をまとめてみて、従来忘れがらであった生活環境の整備についても考慮が払われていることは喜ばしいと思う。この風光明媚な瀬戸内が、また山陰、四国の温泉地、景勝地が産業開発のためにその本来の姿を犠牲にすることなく、生活を楽しみながら工業生産に従事し、仕事のストレスは日々解きほぐされるように十分に活用されることがどんなに重要であるかはいままさに強調することもあるまい。現在まで発展してきた工業地帯の実状はあまりにもひどく、将来の発展の度合いを十分考慮に入れた、いわゆる「先見の明」のある総合的な工業地帯の開発計画の立案、および実施を望んで止まないとともに、土木技術者の責務の大きいことを痛感する次第であるが、また、同時に各方面の十分な理解が望まれる。このため本特集がいささかでも参考になるところがあれば当委員会としても望外の喜びである。